

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年3月31日現在

機関番号：17701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22790499

研究課題名（和文） 地域枠学生への効果的卒前教育プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of an effective educational program before graduation to the students admitted for medically underserved areas

研究代表者

根路銘 安仁(NEROME YASUHITO)

鹿児島大学・大学院医歯学総合研究科・准教授

研究者番号：00457657

### 研究成果の概要（和文）：

地域医療実習は、岡山らの提唱した標準プログラムの11項目（医学教育 2004;35:197-202）に加え地域の魅力を一度に多くの項目を実習させることで、鹿児島大学地域枠学生だけでなく、全国から公募で参加した医学生に対しても良い影響を与え、効率的な実習を実施できると考えられた。全国調査では各項目を、実習毎に分けて行っている大学も多く存在しており、実習項目を多く含み一度に実習できるプログラムが望ましい。また、経験できる項目も偶発的な状況に左右されるため、シミュレーション教育も有用と考えられた。

### 研究成果の概要（英文）：

Community medicine practice, which contains the charm of the area in addition to 11 items which Okayama et.al. reported, had good influence also not only to the Kagoshima University students admitted for medically underserved areas but to the medical student who participated from other university and the efficient practice can carry out. To our survey, The Community medicine practice carried out each item for every practice in many universities. But a practice which contains many training items at once is desirable.

Moreover, since the item this can be experienced by chance, a simulation education maybe useful.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：医歯薬学

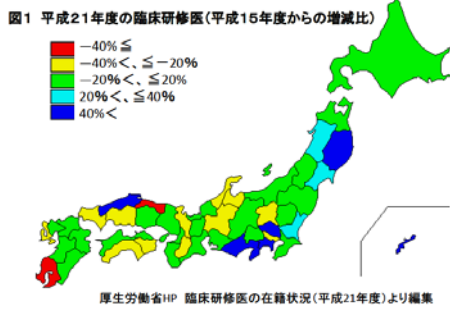
科研費の分科・細目：社会医学 疫学・予防医学

キーワード：地域枠学生、地域医療教育、地域医療実習、全国アンケート

#### 1. 研究開始当初の背景

従来、医師の多くは地域に根ざした医療を実践しようとするものが多く、地方の国立大

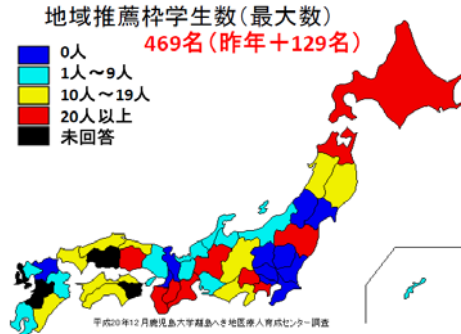
学医学部の卒業生の多くは地元にとどまり、基本的な地域医療を支えてきた。しかし社会環境が変化し、都市部や一部の診療科に人気



が集中するようになり、その結果地方の研修医は激減している(図1)。

平成15年度の研修医数に比した減少では、鹿児島県は特に著しく喫急の課題である。この状況が5年間も続いているため、地域の中核病院が崩壊し、如いては地域医療そのものが崩壊しつつある。そこで医師不足の中で地方の医療を維持して行くために現在具体的に進行しているのが、地域就労の義務を科した医師の安定的供給であり、いわゆる地域推薦枠医学生制度の創設と導入政策である。これは近年増加しており、私達が平成20年12月に全医学部80大学に調査票を送付した結果では平成21年度からは急増する(下図)が、その数や支援金額、義務条件もさまざまである。

平成21年度入学

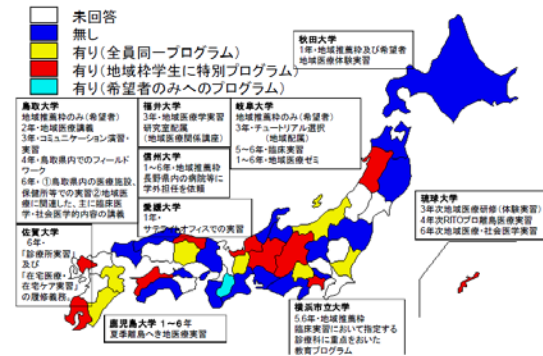


自治医科大学では、全寮制で全員が地域就労を義務とされているのに対し、現在増加している地域枠医学生は、一般医学生と同様に教育され、学年の縦の繋がりもなく、根本的に異なる条件の学生である。その教育に関してどのようなプログラムが、地域医療志向を高めるのに効果的なのかは現在不確定で、これまでまとまった研究はなされていない。地域枠学生の効果的な教育プログラムの開発が早急になされなければ、現在の地域医療の崩壊を止めることはできない。

鹿児島大学離島へき地医療人育成センターは、離島へき地医療に貢献できる医療人の育成を目的とし、離島へき地包括医療に関する高度の知識を習得することへ幅広い支援方法の開発が主な職務である。直接的な業務ではないが地域枠医学生は将来離島へき地に関わる人材となるため、地域医療への意識の向上を果たす卒前教育プログラムを開発す

るのは役立つものとする。平成19年度より鹿児島大学の地域枠学生、全国の離島医療に興味のある医学生に対し離島地域実習を行ってきた。そこで卒前教育の重要性を感じ、平成21年2月13日に都道府県会館で「地域推薦枠医学生の卒前教育をどうするか?～問題点の抽出と対策に関するシンポジウム～」を開催した。その事前調査として、調査票を全医学部、全都道府県に送付した。その結果、域推枠学生に対して様々な卒前教育がなされていた(下図)。

### 地域推薦枠学生に対する教育プログラム



その際、地域枠学生に対して、特別なプログラムを行うことがよいか問題となった。地域枠学生のみ特別な教育を行うことで他の学生からの孤立するのではないかと、また地域医療は地域推薦枠学生のみが行うことであり他の学生は関係ないものにとらえるのではないかとという意見と、特別な教育を行わないで将来地域医療に携わっていく意識が維持できるのかという意見に分かれ、結論はでなかった。

## 2. 研究の目的

地域枠学生に対する卒前教育、特に地域実習をどのように作成するのが、(1)地域医療志向を形成する、(2)医学部内で孤立しないのに効果的なのか、を明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1) 全国医学部調査:

全国80医学部へ、地域枠学生の奨学金貸与状況、卒後の義務規定、卒前地域医療実習について、郵送調査を行った。

### (2) 鹿児島大学地域枠学生への実施:

地域医療実習で学ぶことが望ましい12項目の内、複数項目を実施できる実習プログラムを作成し、鹿児島大学地域枠学生へ入学早期から実施した。その影響を調べるため、地域枠1年生、2年生に対し、各17名に対し、4月と3月にアンケートを実施しVAS値(0-10)で測定した。

### (3) 全国公募医学生への実施:

地域医療実習で学ぶことが望ましい12項目の内複数項目を実施できる実習プログラムを作成し、全国から公募した夏季離島実習参

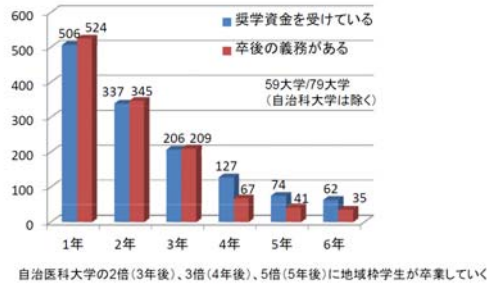
加医学生へ医療実施した。実習前後で、離島医療に関する項目への影響をWebで各自入力させ調査した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 全国医学部調査

##### a. 現状

### 地域枠学生の現状

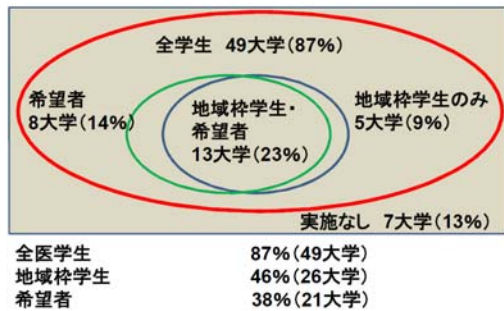


80大学中59大学(73.7%)の回答を得た。昨年度の1~6学年までの奨学資金を受けている学生は、506、337、206、127、74、62名であった。また、卒業義務のある学生は、それぞれ、524、345、209、67、41、35であった。両者とも年々著明に増加していた。

##### b. 地域医療教育(実習)実施状況

地域医療実習に関して、全医学生に49大学(87%)で実施されており、更に地域枠学生へは26大学(46%)、希望者に21大学(38%)

### 地域医療教育(実習)

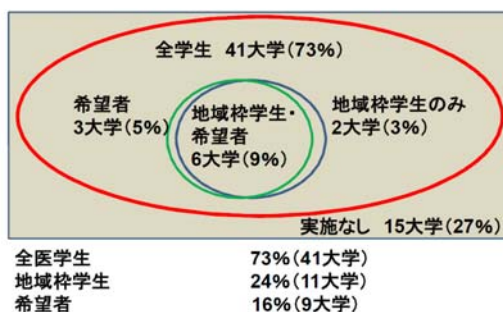


)が実施していた。

##### c. 地域医療教育(講義)状況

また、地域医療講義は、41大学(73%)で実施されており、更に地域枠学生には11大学(24%)、希望学生には9大学(16%)で実施されていた。

### 地域医療教育(講義)



##### d. 考案

地域枠学生のみならず地域医療教育を行っている大学はなく、ほぼ全ての大学で地域医療教育が行われていた、また、地域枠学生には、実習では半数、講義では1/4の大学で更なる教育がされていた。地域医療実習は、正規のカリキュラム内(105実習)、外(38実習)で行われていた。岡山らの「地域医療実習への標準プログラム導入の効果」の論文の11項目に「地域医療の魅力を伝えるもの」項目を入れた12項目で調査した。実習の項目数は実習及び大学ごとでばらつきがあり、「外来実習」、「在宅医療」、「老人保健施設・特別養護老人ホーム」、「病棟回診」が60%以上の大学で実施されていた。一方、「健康教育・患者教育」、「時間外診療」、「予防接種」が大学ごとで半数以下の実施率であった。実習毎では「地域医療の魅力を伝えるもの」が多く、大学毎では「老人保健施設・特別養護老人ホーム」の実習がカリキュラム内で高かった。医療実習はモデルコアカリキュラムが示されているが、実施状況は大学により様々であり、地域枠学生への効果的な地域医療教育を行うためには実習の実施について大学間でコンセンサスが必要と考えられた

##### (2) 鹿児島大学地域枠学生への実施

##### a. 1年生に対する実習前後での評価

「離島へき地医療に興味がありますか」の問いに対し、前8.0±1.6と当初より高かったが、後8.4±1.1に興味が増していた。また、「医師不足の診療科や地域で働きたいという気持ちがありますか」に対しては、前8.1±1.7から8.3±1.1になっていた。「地域枠であることをどう思いますか」に対しては、7.7±2.2から6.7±1.6へメリットと考える割合が減少していた。「地域での就労義務があることや奨学金の返済義務があることで、学生生活に不安を感じることはありませんか?」の対しては、5.1±2.6から5.1±2.6と変化がなかった。

##### b. 2年生に対する実習前後での評価

一方、2年生には同様な離島実習を1年生時に行い、本年は関連地域での医療実習を行った。その結果、「離島へき地医療への興味」の問いに対し8.9±1.8、「地域で働きたい」は8.8±1.6、「地域枠のメリット」は8.5±2.0、「不安」は4.2±3.9となっていた。

##### c. 考案

今回の調査では数が少なく統計学的な有意差は認められなかったが、地域医療実習は、地域医療への興味、勤務志向は高められていた。しかし、1年生では実習前後で地域枠のメリットが下がった理由は、実習を行ったことにあるのか、実習が正規カリキュラム内ではなく、休暇中に実施したためなのか、他の学生



と異なる待遇を行った影響かはわからなかった。しかし、2年生では、地域枠のメリットを感じ、不安が軽減する傾向があった。対象者が異なることによる影響もあるが、繰り返し実習を行い、将来の現場を見せることで本傾向が強まっていく可能性もある。今後、長期的な観察と規模を広げた調査が必要であると考えられた。

### (3) 全国公募医学生への実施

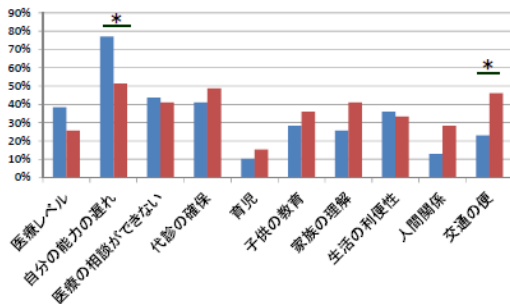
#### a. 参加者の背景

41名中、国公立56%、市立44%。大学地域は全国に分かれており、学年では、4年生が49%、5年生が36%で大半を占めた。男女比はほぼ1:1で、離島へ訪問した回数は、0~1回で69%がほとんど訪問していなかった。

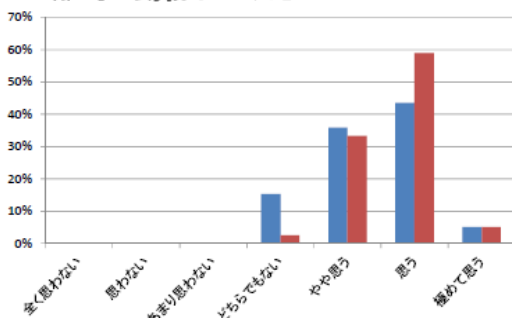
#### b. 実習前後での変化

実習後、「離島で勤務してみたい」方向に移動していた。勤務してみたい期間は2~4年が多かった。離島医療の魅力は実習前後で少し増す傾向であった。携わる際の不安は、実習により「自分の能力の遅れ」は改善したが、「交通の便」は増していた。

離島医療に携わる際の不安



離島で勤務してみたいか？



#### c. 考案

参加者の多くが離島に行ったことはなく、医療にふれる機会が少ないため、実際に体験することにより、離島医療の魅力を再認識し、離島で勤務したい方向へ導かれていた。「自分の能力の遅れ」をはじめ医療面での不安は

解消の傾向であったが、「交通の便」など生活面への不安は増していた。しかし、将来「離島で勤務してみたい」と答える方向になっていることから、実習はよい影響を与えていると考えられた。

#### 4. 結論

地域医療実習は、岡山らの提唱した標準プログラムの11項目（外来診療、在宅医療、病棟回診、時間外診療、巡回診療、デイサービス・デイケア、結構雇用行く・患者教育、健診活動、リハビリテーション、予防接種、老人保健施設・特別養護老人ホーム）に加え、地域の魅力を、一度に多くの項目を実習させることで、鹿児島大学地域枠学生だけでなく、全国から公募で参加した医学生に対しても良い影響を与え、効率的な実習を実施することができると考えられた。そのため、調査数が少なく限界があるが、岡山らの標準的プログラムが自治医科大学学生だけでなく、医学生全般に対しても有効であることが示された。

岡山らの提唱した標準的プログラムの各項目を、実習毎に分けて行っている大学も多く存在しており、実習項目を多く含み一度に実習できるプログラムが望ましい。また、地域では、経験できる項目も偶発的な状況に左右されるため、シミュレーション教育を補完的にこなすことも有用と考えられた。

今回の研究では、研究者1人で行ったため限界があったが、本研究を通じ、全国地域医療教育協議会への参加に繋がった。今後、協議会の中での調査研究に携わっていく予定である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計5件）

(1) 根路銘安仁 全国公募医学生離島実習の試み. 第44回日本医学教育学会 横浜 7月27日, 2012

(2) 根路銘安仁 Regional medical training before the graduation raises the duty intention working in rural areas of medical students without interest to work at remote areas for medical care. 19<sup>th</sup> WONCA, Jeju May 24, 2012

(3) 根路銘安仁 地域医療教育の現状 第43回日本医学教育学会 広島 7月22日、

2011

(4) 根路銘安仁 地域医療教育全国アンケート結果報告 シンポジウム 2011 東京 3月4日、2011

(5) 根路銘安仁 卒前地域医療教育は興味のない学生の関心を高める 第42回日本医学教育学会 東京 7月30日、2010

[図書] (計0件)

[産業財産権] 無し

[その他]

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/ecdr/index.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

根路銘 安仁 (NEROME YASUHITO)  
鹿児島大学・大学院医歯学総合研究科・  
准教授  
研究者番号：00457657